

会議報告書

会議名	令和3年度第2回白井市郷土資料館運営協議会会議		
場所	白井市文化センター2階 かおりホール (中ホール)	日時	令和4年2月25日(金) 15:30~16:40
報告者	郷土・プラネタリウム班	職・氏名	学芸員 山田 喜義
出席者	(委員) 倉田委員(会長) 古里委員(副会長)・鈴木委員・横山委員・森山委員・阿部委員・杉原委員(7名) 1名欠席		
	(事務局) 井上教育長・石田館長(センター長)・高花主幹 生涯学習課 戸谷主査 郷土資料館 山田学芸員 石戸学芸員	傍聴者	2名

1. 開 会

2. あいさつ

○会長より

新型コロナウイルス感染症が続く中での資料館の活動には、十分注意して進めていっていただきたい。また、このような状況下での資料収集も重要であると思う。ともかく地道に館の活動を進めていっていただきたい。

○教育長より

白井市としては市制20周年という年で記念式典も予定していたが、残念ながら中止となった。感染状況に関してはまだまだ油断ならない状況である。郷土資料館においては、今後も対策を行って事業を展開していくつもりであるので、ご指導・ご協力をお願いしたい。

3. 議題

白井市郷土資料館設置管理条例施行規則第10条により、会長が会議の議長となる

(1) 令和3年度事業実施状況報告について

資料に基づき事務局(郷土資料館)より説明を行う
協議結果…承認される

[主な質疑応答]

会長: 古文書修補技術の記録化について、前回の会議では記録映像の撮影許可は得られているとの話だったが、撮影は行ったのか。

事務局: 動画の撮影はまだ行えていない。ただ、修補作業の写真撮影の方は適宜行っており、資料は徐々に集めていっている状況である。

会長: 修補の最初から最後まで全体の撮影は、まだ終わっていないということか。

事務局: そうである。

会長: これは急いで行うべきものであると思うので、ぜひ速やかに行っていただきたい。

委員: 新規寄贈資料の柱時計についてだが、企画展の冊子に出ているのがそのうちの一つなのか。また、この時計の年代はわかっているのか。

事務局：企画展の冊子で使っている柱時計である。年代は1954年(昭和29年)頃のものということで掲載してある。

委員：2点ともか。

事務局：2点目に関しては資料に載っている時計と違い、今は現存していない会社のもので、その会社の記録もなく具体的なことは言えないが、似たような感じで近い時代のものと推定されるため、昭和30年代頃のものと考えているが、わからない。「marky」という会社らしいが、見つからなかったため、今後調査していこうと思っている。

委員：以前古い時計にメイドイン・オキュパイド・ジャパンと書いてあるのを見たことがある。まさに占領期のもので非常に貴重なものであったのだが、そういったものは今回の柱時計にはなかったのか。

事務局：なかったと思う。

委員：了解した。

会長：東日本大震災関連写真10枚とあるが、この写真というのは白井市内を撮影した写真なのか。

事務局：白井市内の写真である。家の壁にひびが入ったとか、壊れて剥がれ落ちたというような風景を撮影したものだが、市内でそういう写真を残している方は少ないので、どんなものでもということをお願いしたら、いただいたという資料である。

会長：環境測定を実施したとのことだが、結果はどうだったのか。

事務局：問題となるような虫の数ではなく、特に害虫となるようなものも大量には検出されなかった。

会長：カビや虫がはびこっているような状況ではないということか。

事務局：そのとおりである。

会長：ほかにないか。

委員：3点ある。1点目は団体見学の小中学校の見学がなかったのは、コロナの影響なのか。2点目は情報発信について、ホームページの更新状況についてはどのようになっているのか。3点目は、寄贈資料の近世文書・近代文書はどういった内容なのか。以上である。

事務局：1点目に関しては、見学の申し込み自体がない状況で、それがコロナの影響によるものなのかはわからない。2点目のホームページについては、なるべく多くの情報を載せるようにはしているが、現在図書館のホームページを間借りしているような状況であるので、なるべく容量が小さく、何かあったときに他館に迷惑のかからないような載せ方しかできていない。3点目の古文書については、白井市に一部が寄贈されている清戸の〇〇家のものである。家の整理をしていて新しく出てきたものとして持ってきていただいた。内容については詳しく読んでみないとわからないが、過去帳の関係が多い。近代文書は清戸区の一筆限りの地図帳である。

会長：ホームページに容量の大きいものは載せられないとのことだが、年報であるとか企画展の冊子などは、白井に住んでいる人なら読んでみたいだろう。これらをホームページにアップすることは難しいのか。こうしたものは学校関係の今後の学習にも参考になるだろう。印刷の委託先にデジタルデータでの納品もしてもらえば、手間はかからないと思う。少しずつ充実していけばよいと思うが、どうか。

事務局：年報や企画展冊子のデータ容量としてはかなり大きい。ホームページ自体が郷土資料館単独の物ではなく、複雑なことをすると郷土資料館以外に影響を与えてしまう恐れがあるため、映像などを流すことが難しく、それを行うには専用のホームページが必要となってくる。しかし、YouTubeなどの動画なら直接ホームページで流さなくても、リンク先を載せ

るなどすれば大丈夫だとは思う。

会長：ホームページだったらアクセスもしやすく、拡大縮小もできるため見やすいので、ある意味では利用者も増えることが考えられる。前回の会議でもホームページへのアクセス数はカウントしていないかという質問があったと思うが、やはりアクセスした人は来館したことと同じ扱いにしても良いと思う。そうなれば実際に来館される方は少ないかもしれないが、ホームページ上から白井について知りたいと思う人がアクセスしてくれることは非常に大きいと思うし、資料館の宣伝にもなる。できるだけ関連資料をアップして多くの市民の方に見てもらうことが重要だろう。すぐには無理だろうが、郷土資料館単独のホームページを作ることが資料館の広報にもつながるし、利用者増にもつながる。資料は学校教育にも参考になると思うが、直接来た人や学校に数枚送るだけで終わらせるのはもったいないし、企画展をもっと知ってもらうために必要だと思う。ホームページの充実は一度には無理であり、少しずつ情報を加えていくしかないと思うがどうか。

事務局：おっしゃる通り、予算的な問題はあるが、単独のホームページができればよいと思う。資料に関しては学校に数部配布しており、学校には図書館を経由して本の貸し借りをしているシステムがあるので、児童数分くらいだったら用意することはできるので、そういったところも利用していければと思っている。データの的には、写真や図がかなり入っているので、それを蓄積していくとかなりの容量が必要であり、管理についても考えなくてはならないので、もう少し研究していきたいと思う。

会長：了解した。将来を見据えて一刻も早く手を加えた方が良くと思う。

～ 以上で令和3年度事業実施状況報告についての質疑終了 ～

(2) 令和4年度事業計画(案)について

資料に基づき事務局(郷土資料館)より説明

協議結果…承認される

[主な質疑応答]

委員：企画展について、大師講とはどんな内容になるのか。たしか東葛印旛大師講は今年が200周年であり、印西にも印西大師があるが、どのような形で考えているのかを教えてください。

事務局：たしかに今年が200周年で、それをピックアップして扱おうと考えている。東葛印旛大師講は去年、一昨年あたりがコロナの関係で中止となっており、来年度やるのかもわかっていない。このような状況で調査も難しく、そのような中で白井市には新四国巡礼にかかわった方がいるので、そういった人物をクローズアップしながら、この地域の新四国巡礼のことを扱っていこうと計画している。

委員：体験教室について、今年度もまが玉づくりを行っているが、新しい体験教室は考えていないのか。印西は埴輪づくりやしめ縄づくりなども行っており好評となっている。

事務局：コロナの関係で今年度は行わなかったが、企画展が隔年になったことにより、間の年に体験フェスタというものを開催していた。そこでは、昔の道具を実際に触ったりと、通常とは違う体験教室となっている。ただ、まったく新しいものとしては現状考えていない。本当は土器づくりや埴輪づくりを行いたいが、焼ける場所が現在市内にはない。昔は白井にもキャンプ場があり、そこで野焼も行えたが、現在は閉まってしまい、使用できない状況である。少ない人数で簡単にできる何かアイデアがあったら、ぜひとも知恵をお貸しいた

だきたい。

会長：土器焼は消防署に実施場所と時間を届け出ればできないことはないと思うが、その点白井はどうなっているのか。

事務局：消防の方に届ければ可能だとは思うが、その場所を提供してくれる方や燃料となる木材を手に入れるところもなくなってしまっているの、条件的に厳しくなっている。

会長：市が持っている土地でも難しいか。

事務局：現状では難しいと思う。公園などでやってしまうと周りに影響がでてしまうことも考えられるため難しい。周囲に何も影響がなく、クレームなども受けないであろう場所を提供してもらえればと思うが、現状心当たりがない。

委員：埴輪づくりは、焼かなくてもしっかりと固まって焼けた風になる粘土があり、それを使って印西では行っているのだが、そういったものを使うというのも一つの方法だろう。情報収集を進めていっていただければと思う。

会長：広い土地があつて、燃料となる材料もたくさんあると思っていたが案外ないものであるとわかった。私も以前縄文土器づくりを行ったときは、市所有地には適当な場所が見つからず、個人のお宅の敷地内で行わせてもらったことがある。土器づくりの要望はあるのか。

事務局：要望としてはない。

会長：土器づくりは人気があり、希望者は他市町村の博物館の講座に申し込むことが多い。しかし土器づくりについては、個々の市の博物館でやって欲しいというような意見を、他市の土器づくり開催館から受けたこともある。小さいものからでも始めて、実現していただければと思う。

委員：東葛印旛大師講について、200年というのは何か根拠があるのか。また、例年は何月頃に行っているのか教えていただきたい。

事務局：時期的には5月1日から、5日間で印西大師だと4月に9日間行われていたはずである。東葛印旛大師が終わると、市内では5月6日ごろに平塚大師が行われる。東葛印旛大師講が成立する前には下総四郡新四国というのがあり、東葛印旛大師、吉橋大師、葛飾大師の三つに分かれたとされる。この分かれて成立した年代が1822年と聞いている。何年か前に八千代の新四国の関連に精通している方と話をしたときに、タイミングがちょうどいいのではないかとということもあつて、前任の資料館担当者とも相談しながら企画を温めてきたものである。また、寄託していただいている資料の中にも新四国関連の資料がいくつかあるほか、白井市内にも小名内に新四国再興発起人を名乗った人物がいるため、取り扱ったら市民の関心も高いというような話も出たところである。

委員：3点質問がある。1点目は、体験教室は夏と冬で行っているが、別の時期に入れることは職員の体制的に難しいのか。2点目は、小学校との関係性についてだが、令和3年度にしても小学校の見学がないことから、今後どうしていけばよいと考えているか。zoomなどを用いた出前授業や古い道具の話など、資料館から何かしらの提案があつた方がよいのではないか。3点目は以前修補スタッフに対する手引き書を作っていたが、それは完成しているのか。また、新規スタッフが入ったときのカリキュラムはどうなっているか。

事務局：1点目の体験教室については、小学生のお子さんが参加しやすい長期休み期間ということで、8月と3月に行っている。2点目の学校の利用がなかったことに関しては、隣接するプラネタリウム館の投映でも学校のキャンセル等も多くあることから、学校の方針で申し込みができなかったのではないかと思う。また、企画展の解説資料を作成した時に、学校に対して利用検討をお願いする旨を出させていただいている。難しいのはコロナの関係で、実際に触れられる道具の使いまわしをどのようにしていくのかということである。1月の見学の際には背負子を背負っ

てもらおうという体験を行った。非常に好評であったが、それはアニメのキャラクターがそのような格好をしているというので楽しかったという。ただ、そのようにみんなで使いまわすことをどうしていくのかは今後考えていかななくてはいけないので、講座や展示を行っていくうえでもやり方を変えていかななくてはいけないと感じたところである。

3点目の修補スタッフの手引書に関して、一応は完成したが、修補スタッフの指導者である〇〇氏と相談したところ、文字が多いためもっと写真を使ったほうが良いという意見から、さらに改良していくこととなっている。新規スタッフのカリキュラムについてはまずは簡単な古文書を用意してから、ベテランのスタッフの方と共同で行ってもらおうと考えている。さらに指導者である〇〇氏にも協力をしてもらい、徐々にレベルを上げていってもらおうような流れを考えている。

委員：コロナ禍になって、接触型での対応が難しいこと、それをどのように考えていくのか研究していく考えであるということが分かった。手引書については動画と並行して使える形にすればよいのではないかと考えているので、写真撮影と同時に動画の撮影も行っていけばよいのではないかと思う。

～以上で、令和4年度事業計画(案)についての質疑終了～

4. その他

・文化センターのあり方検討について

事務局よりこれまでの文化センターのあり方検討事業の経過と、今後のスケジュールについての報告を行う。3月下旬に開催する文化センターのあり方検討委員会会議の結果は、来年度の運営協議会内で報告し、会議で出た内容について意見をいただきたいと考えている。

倉田会長より文化センターのあり方検討に係る、ヒアリングの内容について報告が行われる。郷土資料館の設備に対する問題点や今後新たに行うべき視点。廃止した場合の影響についてという質問の問題点などについて回答した。

事務局：その他なければ本日の会議はこれで終了させていただきたいと思う。(終)